

1. 件 名：新規制基準適合性審査に関する事業者ヒアリング（女川原子力発電所2号炉工事計画）（153）
2. 日 時：令和3年6月11日 10時00分～12時00分
13時30分～18時00分
3. 場 所：原子力規制庁 8階A会議室（一部TV会議システムを利用）
4. 出席者：（※ TV会議システムによる出席）

原子力規制庁：

（新基準適合性審査チーム）

天野安全管理調査官※、江崎企画調査官、止野上席安全審査官※、
植木主任安全審査官、片桐主任安全審査官、藤原主任安全審査官、
三浦主任安全審査官※、皆川主任安全審査官、宮本主任安全審査官※、
服部安全審査専門職、山浦技術参与

技術基盤グループ 地震・津波研究部門

堀野技術参与

東北電力株式会社：

原子力本部 原子力部 課長、他2名

原子力本部 原子力部 課長、他28名※

5. 要 旨

- （1）東北電力株式会社から、女川原子力発電所2号炉の工事計画補正申請のうち、「使用済燃料貯蔵ラックの減衰定数」、「サプレッションチェンバの耐震性評価」、「可搬型重大事故等対処設備の設計方針」等について、提出資料に基づき説明があった。
- （2）これに対し、原子力規制庁は以下の点について指摘等を行うとともに、今後、説明内容について引き続き確認することとした。

<使用済燃料貯蔵ラックの減衰定数>

- 燃料ラックの多自由度解析モデルを用いた減衰の解析検討について、加振試験等との関係を踏まえ、解析モデル及び解析条件の詳細を整理して説明すること。

<可搬型重大事故等対処設備の耐震計算の方針>

- 考慮する荷重の組合せにおいて、積雪荷重については除雪にて対応することで無視できるとしているが、除雪に対する考え方を先行プラントと

比較した上で、整理して説明すること。

- 可搬型重大事故等対処設備の転倒評価等において、ランダム波に加えて、正弦波又はサインビート波による加振試験を行っている理由を説明すること。

＜可搬型重大事故等対処設備の保管エリア等における入力地震動＞

- 保管エリアの地震応答解析について、評価に用いた物性値等の条件の詳細を示した上で、最大加速度・変位・ひずみの分布を整理して説明すること。

(3) 東北電力株式会社から、(2) について了解した旨の回答があった。

なお、本面談については、事業者から対面での面談開催の希望があったため、「緊急事態宣言を踏まえた原子力規制委員会の対応の変更について」（令和3年4月28日 第6回原子力規制委員会配付資料3）を踏まえ、一部対面で実施した。

6. その他

提出資料：

- (1-1) 女川2号工認 指摘事項に対する回答整理表（耐震基本方針）（02-他-F-19-0004__改22）
- (1-2) 女川2号工認 指摘事項に対する回答整理表（耐震評価：サプレッションチェンバ）（02-他-F-01-0036__改7）
- (1-3) VI-2-1-12-1 配管及び支持構造物の耐震計算について（02-E-B-19-0029__改4）
- (1-4) 先行審査プラントの記載との比較表（VI-2-1-12-1 配管及び支持構造物の耐震計算について）（02-E-B-19-0030__改3）
- (1-5) 補足-600-40-41 埋込金物プレートの耐震評価方法に係る補足説明資料（02-補-E-19-0600-40-41__改1）
- (1-6) 補足-600-11 サプレッションチェンバの耐震評価における内部水質量の考え方の変更等についての補足説明資料（02-補-E-19-0600-11__改8）
- (1-7) 女川原子力発電所第2号機 サプレッションチェンバの耐震評価について（02-他-F-19-0031__改2）

- (1-8) 女川2号工認 指摘事項に対する回答整理表(耐震評価:使用済燃料ラックの減衰定数)(O2-他-F-19-0014__改3)
- (1-9) VI-2-4-2-2 使用済燃料貯蔵ラック(第1,2号機共用)の耐震性についての計算書(O2-E-B-02-0007__改3)
- (1-10) VI-5-40 計算機プログラム(解析コード)の概要・MSC NASTRAN(O2-E-B-22-0047__改0)(令和3年2月18日提出資料)
- (1-11) 補足-600-13 使用済燃料貯蔵ラックの設計用減衰定数について(O2-補-E-19-0600-13__改3)
- (1-12) 女川原子力発電所第2号機 使用済燃料貯蔵ラックの設計用減衰定数について(O2-他-F-19-0030__改0)
- (2-1) VI-1-1-6-別添2 可搬型重大事故等対処設備の設計方針(O2-E-B-01-0024__改0)
- (2-2) 先行審査プラントの記載との比較表(VI-1-1-6-別添2 可搬型重大事故等対処設備の設計方針)(O2-E-B-01-0025__改0)
- (2-3) VI-2-別添3-1 可搬型重大事故等対処設備の耐震計算の方針(O2-E-B-01-0026__改0)
- (2-4) 先行審査プラントの記載との比較表(VI-2-別添3-1 可搬型重大事故等対処設備の耐震計算の方針)(O2-E-B-01-0027__改0)
- (2-5) VI-2-別添3-2 可搬型重大事故等対処設備の保管エリア等における入力地震動(O2-E-B-01-0028__改0)
- (2-6) 先行審査プラントの記載との比較表(VI-2-別添3-2 可搬型重大事故等対処設備の保管エリア等における入力地震動)(O2-E-B-01-0029__改0)
- (2-7) 補足-600-23 可搬型重大事故等対処設備の耐震性に関する説明書に関する補足説明資料(O2-補-E-19-0600-23__改0)
- (2-8) 先行審査プラントの記載との比較表(補足-600-23 可搬型重大事故等対処設備の耐震性に関する説明書に関する補足説明資料)(O2-補-E-01-0012__改0)
- (2-9) VI-5-11 計算機プログラム(解析コード)の概要・Super FLUSH/2D(O2-E-B-22-0018__改0)(令和3年2月25日提出資料)
- (2-10) VI-5-31 計算機プログラム(解析コード)の概要・SHA

KE (O2-E-B-22-0038__改0) (令和3年2月25日提出資料)

(2-11) VI-5-36 計算機プログラム(解析コード)の概要 ・mic
roSHAKE/3D (O2-E-B-22-0043__改0) (令和3
年2月25日提出資料)

以上